

# 17年間の逃亡生活を語らず…



## 平田容疑者

# 田原容疑者

## オチ

日黒公証役場事務長仮谷清志さんへの逮捕監禁致死事件で、『年の瀬出頭』した元オウム真理教幹部・平田信容疑者（46）は、7日で逮捕から1週間。平田容疑者は麻原彰晃こと松本智津夫死刑囚（56）との決別、また仮谷さんへの謝罪の念を表しているが、これまでの足取りについてはかたくなに口をつぐんでいる。他のオウム特別指名手配犯の検挙にもつながる、17年間に及ぶ潜伏生活のすべてを自状させる『元オチ』の可能性はあるのか――。

麻原との決別を口にするも

平田容疑者は逮捕後、オウム離れを口にしていました。麻原死刑囚が、公判や拘置所内でトイレに行かずにオムツを着用、キテレツな言動を繰り返していたことも「詐病（虚偽の病）」ですね。それくらいのことはする人」と軽蔑。2ショット写真も

神奈川県警元刑事の小川泰平氏（50）の指摘。「自分の罪は認めるが仲間のこと話を話さないのは、組織犯罪犯の典型例。平田の容疑が逮捕監禁致死で死刑にはならぬといいうのが大きい。逃走の事実は心情面でマイナスになるが、それ自体は罪にならない。逆に平田を

その方法は？神奈川県警元刑事が指摘

かくまつていた支援者がいるとなれば、犯人隠避に問われるのでペラペラとは言えないこともある。オウムとまだつながっている可能性もあるし、支援者への義理でんぶんにかけているのは」

突破口となるのは、取り調べたのは警察の威信にかけ、今でも過言でない。また、

力だ。「（出頭時たら  
い回しで）警察庁の片桐  
裕長官が『対応として確  
切でなかつた』と言及し  
たのは異例。担当部長には相当ハッパがかかって  
いるし、取り調べ担当者は  
は警察の威信にかけ、今  
てを背負つてていると言つ

ム犯の特有事情を指摘する。オウム事件では、サリ  
ン散布の実行犯で医師の林郁夫受刑者（64—無期  
懲役）が逮捕後1か月で完オチし、全容説明へと  
つながった。警察が汚名返上するのか、それとも  
平田容疑者が半オチを首くか。（小林宏隆）

5年前にハサミで切り刻み、廃棄したという。

ぐむことはあったが、ワ  
ーッと泣いたことはなか  
った。もっと早く出頭し  
たいと思っていたようだ  
が、国松長官狙撃事件の  
主犯にされると思って出  
てこられなかった。彼は  
怖がりですから」と指摘。  
素直な心情吐露のよう  
にも見えるが、自身の逃  
亡も切って落とす念の入れようだ。  
潜伏先や支援者の存在が  
判明すれば、残るオウム  
特別指名手配犯の高橋圭  
也(53)、菊地直子(40)  
両容疑者の居所につなが  
る可能性もある。それな  
けに平田容疑者の「完  
チ」は至上命令となる。

の攻防ですね」。小川氏は完オチは十分可能とみていてる。

一方、オウム問題に詳しい有田芳生参院議員(59)は「(オウム犯の)取り調べはカルトについての理論やマインドコントロールの中身を理解した人が行わないと難し

「生活については一迷路が掛かるので言いたくない。国内にいた」と話すのみ。出頭時の衣服に付

られ、平田がもう隠し通せないと思えば、自ら話した方がいいとなるかもしない。警察と容疑者